身近な支援体制づくりが 児童虐待から家族を救う

児童虐待による痛ましい事件が全国で相次いでいる。大阪府内の児童相談所（以下児相）に寄せられた児童虐待相談対応件数は年々増加しており、平成27年度は16,581件（大阪市、堺市含む）で6年連続全国最多となった。社会的背景には何があるのか、虐待を防ぐためには何が必要なのか。

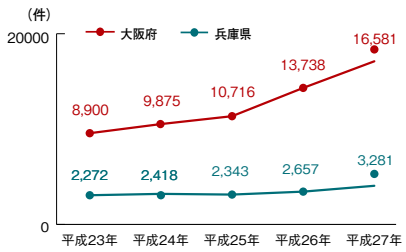
【身体的虐待】
殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせるなど

【性的虐待】
子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの被写体にするなど

【ネグレクト】
家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かないなど

【心理的虐待】
言葉による脅し、無視、兄弟間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう（DV）など

［ 児童相談所での児童虐待相談対応件数の推移 ］



データ：厚生労働省の資料をもとに作成

相次ぐ虐待事件に 警察の介入を強化

相談対応件数の増加の一因として、児童虐待の事件報道により、虐待への社会的認知が高まっていることが挙げられる。また、子どもの目の前でDVが行われる「面前DV」が虐待にあたるとの認識が広がり、DVへの警察の介入から通告に至るケースも増えている。

府内で発生した虐待事件を受け2月、府は児相と府警が情報を共有して子どもの安全確認と安全確保を行うこと等を盛り込んだ協定を締結。さらに府警では平成29年度から「児童虐待対策室」を新設した。児童虐待に特化した部署の設置は全国初だ。児相の情報を共有することで虐待事案を把握し、所在不明の子どもの積極的な安否確認や、虐待の疑いがあると判断した場合の介入など、虐待への対応力を強化する。

地域の相談から 早期発見と未然防止を

大阪府では平成23年2月に「大阪府子どもを虐待から守る条例」を施行し、通告から48時間以内の安全確認や、妊娠期からの切れ目のない子育て支援などに取り組んでいる。また同条例では、アルバイト代など子どもの財産を不当に処分することを「経済的虐待」と明確化されている。

一方で、相談・通告があっても死亡事例に至るケースはある。府の担当者は「虐待を確実にキャッチし支援につなげる必要がある。地域の方にも協力いただきながら、家族が孤立しないよう見守ることが大切」と話す。児童福祉法及び児童虐待防止法では、全国民に対し、虐待が疑われる場合は通告することを義務づけており、府でも「躊躇せず相談を」と呼びかけている。

児童相談所全国共通 3桁ダイヤル **189**（いち はや く）

お住まいの地域の児童相談所につながります。
※一部のIP電話からはつながりません。
※通話料がかかります。

「虐待」と「しつけ」の違いとは

日本子ども虐待防止学会の理事などを務める、山梨県立大学人間福祉学部の西澤哲教授は「“しつけ”は、子が「不快」に感じていることを「快」に立て直す手伝いをし、自立心を育むことだ」と定義する。一方、虐待は大人が自分の精神的安定のために子どもを利用、濫用しているに過ぎない。親は濫用したことを正当化せず、子どもに謝罪すれば、心理的悪影響は和らぎ、親自身も濫用を回避できるようになるという。

虐待は、さまざまな要因や背景が複雑に絡み合って起こる。著しい虐待行為よりも実は、“グレーゾーン”の方が多いのではと西澤教授は指摘する。「“子どもの不快を快にするお手伝い”を頭に置き、子どもに接することが大切だ」。

川端康成の自筆原稿発見 茨木市立川端康成文学館

茨木市は2月、日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成の自筆原稿が、新たに発見されたと発表した。現在、市内にある川端康成文学館に所蔵されている。昨年初夏に埼玉県在住の男性から「康成の原稿が家にあるので確認してほしい」と同館に連絡があったことがきっかけとなった。

今回見つかったのは、雑誌「週刊サンケイ」1963年7月15日号に「私のふるさと」の題で掲載された随筆の原稿5枚。入念な推敲のあとが見られ、4枚目はその大部分を削除しているが、そこには、康成の幼少期に相次いで亡くなった家族への思いや死生観が吐露されていた。3歳から18歳まで茨木で過ごした康成だが、茨木について述べた文章は希少という。

インクや紙がここまできれいな状態を保っているのは珍しいという。

同館の担当者は「発表されている内容がすべてだと思っていた。今まで知られていなかった康成の思いに触れることができる貴重な資料だ」と話す。発見された原稿は保存状態が非常に良く、罫線までできれいに残っている。照明による劣化を避けるために、現在のところ、原本の常設展示の予定はないが、今後テーマ展示の中での公開を検討するという。

「私のふるさと」は文学館発行の、茨木を舞台とした作品集「川端康成と茨木」にも収められている。同館で購入可能。

茨木市立川端康成文学館

上中条二丁目11-25　営／午前9時～午後5時
火曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日休館
入館無料

15歳の頃にはすでに小説家を目指していたという康成。同館には、写真・作文・習字など茨木時代の資料が常設展示されている。4月はテーマ展示「伊豆の踊子」が開催される。

特急「サンダーバード」 JR高槻駅に停車

大阪と北陸を結ぶ特急「サンダーバード」が、3月4日のダイヤ改正からJR高槻駅に一部停車している。昨年3月には、京都と関西空港を結ぶ特急「はるか」が停車しており、ますます交通利便性の高い駅となった。

「はるか」の停車は、ホームの混雑解消や安全性の確保のためホームが拡充されたことに併せて実施された。その後、「はるか」の乗客数が順調に伸びたため、今回の「サンダーバード」の停車が決定したという。市は「特急停車の拡充により、旅行やビジネスに大変便利になる」と魅力が高まった街をPRしている。

茨木市ブランドロゴ 「次なる茨木へ。」に決定

次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

・「茨」の漢字の中に「次」という字があり、過去・現在・未来をつなぐ意味が込められている
・ロゴの傾斜線は地軸の傾き（23.4度）を表し、多様に変化していく様子を表現

茨木市のブランドイメージ向上などを目的とするロゴが「次なる茨木へ。」に決定した。市は、市民の意見などをもとにロゴを3案作成し、市民の思いを反映するため2月に市民投票を実施。投票数2,084票のうち1,100票を獲得して1位となった。加えて、市は当ロゴが、「まちに関わる人たちの、これからの茨木への期待感と活動意欲につながるメッセージ」であることが決定理由としている。今後、来年の市制施行70周年記念とあわせて、活用していくという。

性犯罪被害に遭わないために

協力:大阪府警察

大阪府は、平成28年中の**強制わいせつ事件の認知件数**（※被害届が出された件数）が936件で、**全国最多**となっている。性犯罪は被害届が出されていないケースも多く、実際に発生している件数は認知件数を上回っていると考えられる。

［ 発生状況 ］
- 被害者の年齢は10～20歳代が全体の約8割を占める
- 発生場所は道路上が半数以上を占めて最も多く、続いて、マンション・団地等の共同住宅が多い
- 午後9時～午前0時台の間に多く発生。全体の約4割を占める

［ 実際の被害事例 ］
- 道路を歩いている女性の後ろから抱きついて口をふさぎ、身体を触る
- 道を尋ねる等、声をかけて女性に近づき、身体を触る
- 女性がマンションのオートロックを解除や、玄関ドアを開けようとする際に、後ろから抱きつき身体を触る

女性を狙った性犯罪は、人通りの少ない夜道やマンション・アパート等の共同住宅内で多発していることから犯罪を未然に防止するためのポイントをチェックしておきましょう。

「ながら歩き」をやめましょう
スマートフォンを操作しながら、イヤホンで音楽を聴きながら歩くと注意力が散漫に。不審者に気付かなかったり、交通事故に遭う危険性も。

周囲を確認しましょう
夜道を一人で帰る時、マンション等に入る前には、必ず後ろを振り向いて不審者がいないか確認しましょう。

必ず鍵をかけましょう
帰宅したら必ず玄関の鍵・ドアチェーンをかけ、オートロックや高層階のマンションでも窓やベランダの鍵をかけるようにしましょう。

防犯ブザーを携帯しましょう
いざという時、すぐに使えるよう携帯し、電池切れや故障がないかこまめに確認しましょう。

性犯罪の被害にあわれた方、ひとりで悩んでいませんか。どうかひとりで悩まないで、ご相談ください。相談は匿名でもOKです。

平日9時～20時は、女性警察官が対応
（土日祝および上記以外の時間帯は、留守番電話で対応）